

第3 1 回BA運営委員会の開催結果について

文部科学省 研究開発局
研究開発戦略官(核融合・原子力国際協力担当) 付



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,

CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第31回BA運営委員会の概要

日程・場所

- 令和5年5月11日（木）
- 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 六ヶ所研究所（青森県六ヶ所村）

出席者

- （日本）林 孝浩 文部科学省大臣官房審議官（研究開発局担当） ほか
（欧州）マッシモ・ガリバ 欧州委員会エネルギー総局副総局長 ほか

主な議題

1. 3事業の進捗状況の報告
 - ①国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動（IFMIF/EVEDA）事業
 - ②国際核融合エネルギー研究センター（IFERC）事業
 - ③サテライト・トカマク計画（STP）事業
2. その他



第31回BA運営委員会の結果概要

BA運営委員会では、IFMIF/EVEDA、IFERC、サテライト・トカマク計画の3事業について、事業の進展を確認するとともに、今後の作業計画等について議論。

1. 各事業の進捗

① 国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動（IFMIF/EVEDA）事業

- 高周波四重極加速器（RFQ）開発において、改良型のRFカプラが新規に開発され成功裏に試験された。
- 事業委員会は、技術課題の包括的な評価を元にした事業スケジュールの改訂を承認。

② 国際核融合エネルギー研究センター（IFERC）事業

- 計算機シミュレーションセンター（CSC）、原型炉設計及び研究開発、遠隔実験センター（REC）活動が順調に進展。
- ITER機構との共同研究を通じ、ITERと六ヶ所のREC間の恒常的なソフトウェア統合運用を可能とする基盤が整備された。

③ サテライト・トカマク計画（STP）事業（JT-60SA）

- 2021年3月の平衡磁場コイルでの事象を受け、JT-60SAの絶縁強化作業などを進めてきた。
得られた経験・知見をITERと共有し、ITERや将来の原型炉のリスクを低減するための協力を実施。
- 事業委員会は、修理作業の最新の状況を元に検討された事業スケジュールを確認。

※JT-60SAは、5月30日（火）に統合試験運転を再開した。秋頃の初プラズマを目指している。

2. その他

- JT-60SA国際核融合スクールの第1回が、2023年9月4日から15日にかけて開催予定。
- 事業委員会は、六ヶ所サイトにおける欧州研究者・技術者及びその家族への高い水準の生活支援・教育支援に対する青森県及び六ヶ所村の多大なる尽力に、感謝の意を表明。
- 次回、第32回BA運営委員会は、2023年12月14日にスペインにて開催予定。